

理事長就任あいさつ



鳥取県議会議員 石 黒 豊

本年4月に本委員会の理事長に就任いたしました鳥取県議会議員長の石黒豊でございます。

県土の保全にとって森林や緑の大切さは、今さら私が申し上げるまでもありませんが、良質な水の安定供給、国土の保全、二酸化炭素の吸収、野生動物の生息の場、都市のヒートランド現象の緩和など森林は実に多くの役割を果たしております。

しかし、このように重要な森林や緑が今、ひん死の状況にあります。山村の主要な産業である林業は、木材価格の長期低迷、過疎化や高齢化の進展により、生業（なりわい）として成り立たなくなっております。

折しも、昨年「森林・林業基本法」が成立し、「森林・林業基本計画」が策定され、森林資源を活用した循環型社会の実現や林業再建の施策が進められようとしております。

このような中、鳥取県では、林野関係予算の一層の充実による林野公共事業の推進は、「森林という環境」を創造する事業であるとの認識のもと、21世紀の公共事業の重点分野に位置付けることを求める意見書を先の6月議会で採択し、内閣総理大臣をはじめとする関係大臣に提出したところであります。

また、県民みんなで広く薄く経費を負担し水源を守ることを目的とした水源かん養税の創設も検討しているところであります。

本委員会では、県民参加での緑づくりを進めるため、緑の募金活動や募金による学校・公園・公共施設の緑化、森林の整備をはじめ、みどりの少年団の育成や「森っ子倶楽部」などボランティア団体の活動支援等幅広い活動を行っております。今後とも、鳥取県を緑豊かな美しい郷土とするため、積極的に取り組んで参りますので、皆様方の益々の御支援・御協力をお願い申し上げ、就任のあいさつといたします。

緑の募金

皆様方のご好意による緑の募金は、緑の保全などさまざまな森林づくりに活用されています。

- ・ 森林整備 力強い森づくり

水源林の保全・整備や下刈り・間伐等の森林育成、上下流連携の下に実施される森林づくり

- ・ 緑化の推進 みどりの創造

地域緑化計画、青少年の緑化運動、緑化に関する普及啓発運動等

- ・ 緑を通じた国際協力 地球を救うみどりの回復

事業紹介 県内各地で活躍するボランティア団体

皆様から寄せられた「緑の募金」は森林・緑を守るため各地に活用されています。

「魅力ある郷土の創出」

社地区振興協議会の活動

平成14年3月21日（春分の日）に倉吉市のシンボルの一つである四王寺山に社地区住民と社小学校のボランティア約80名が地域のシンボル、景観木として桜96本、コブシ23本の植栽を行いました。

この活動の目的は、地区住民（子ども達を含め）自らが、地域に素晴らしい緑化景観を創出することにより、魅力的な地域づくりを行い、緑化推進意識の向上及び郷土愛を育むことです。

これからも毎年地区住民と青少年で地区の緑化を推進し、地元の造園業者などの協力を得て管理を行っていく予定です。

このような活動を継続し、将来的には魅力的な緑化景観を有する郷土を確立していくつもりです。



親子

社団法人鳥取県緑化推進委員会江府町支部

江府中学校では、昨年からは緑と水の大切さを、学習してもらおうと「緑の森推進活動」を実施しています。

昨年秋には、江府町鏡ヶ成の土地を町より提供してもらい、1年生・3年生の生徒79名が参加しブナの植樹を実施しました。生徒たちは植樹活動を行なう前に森林と水の関係や森のはたらきについて学び、この時間に学んだことを自らが実践してみようというもので、今年は昨年植樹したブナの育成を行なうため下刈りを実施しています。

日頃、木の植栽や保育の体験のない生徒たちがこのような活動を行なうことにより、緑のダムとしての森の大切さを学ぶきっかけになったと思います。



鳥取市連合婦人会によるリサイクルゾーンの環境緑化

鳥取市連合婦人会 会長 本多享子

本婦人会は、住み良い社会づくりを目的に、色々な活動をしています。平成6年夏の全国的な水不足を契機とした森を守り育てる取組み、緑の募金活動を基本に「次代へ残したい私たちの活動」をテーマとした子ども達に緑豊かな森を引き継ぐ活動を展開しています。

鳥取市伏野の廃品リサイクル施設内の「白兔グラウンドゴルフ場」は「リサイクル」というイメージが強く、利用者が伸び悩んでいました。

そこで、管理している鳥取県東部広域管理組合に、環境緑化の推進により利用者の増大を提案し、それと併せ平成13年4月1日にこのゴルフ場を「白兔の丘」と命名し、約140名の手でサルスベリなど360本を植えました。

サルスベリは、8月から9月にかけて華麗な濃紅色の花をたくさん咲かせ、関係者はもとより利用者の皆さんに大変喜ばれています。

「白兔の丘」が多くの人に親しまれ、利用者が増え四季折々に楽しめる場所となったことをうれしく思っております。



森のはたらき

キャラボクグループ 代表 小原康正

キャラボクグループは大山町所子、高麗地区の子ども会で構成されるグループです。大山町は豊かな自然に恵まれ、山川海の恵みをたくさんもらっています。

このたび、身近にある森林を通して、子どもたちにその素晴らしさに気づいてもらおうと、地域の山での枝打ちや植樹を始めました。作業の前に地域の指導者から森林のはたらきや枝打ち・植樹の仕方を教えてもらいました。「枝打ちをすると林床に草が生え水を蓄える働きが高まる」との説明に子どもたちは真剣に耳を傾け、自分たちの作業の意味を理解しながら活動していたと思います。植樹体験も地域のボランティアの方々に協力していただきながら植えていきました。斜面がけっこうあり、子どもたちにはきつい作業だったと思いますが、最後までやり遂げ、貴重な体験になったと思います。



小学校統合記念植樹祭

平成13年4月21日に岩美町立岩美南小学校で小学校統合を記念して植樹祭を開催しました。

この植樹祭では、全校児童、教師並びに保護者総勢約500人で協力して、イチョウ、メタセコイア、クスノキ、カシを植樹したほか、梨、アンズ、ザクロ、ピワ、イチジク、柿、桃、といった実のなる木を植えました。

なかでもイチョウ、メタセコイア、クスノキ、カシは、統合した四つの小学校（蒲生、岩井、小田、本庄）の代表的な木であり、各小学校のシンボルツリーとして記念に植えました。

児童達にとっては、初めての体験ということもあり慣れない手つきで一生懸命作業していました。

また、参加した先生からは、「これを期に緑を大切にす優しい心を育てて欲しい」と言った声も聞こえました。



「雫の森」...順調に生育中です

杉の雫吟醸の会

平成13年春に「杉の雫吟醸の会」設立時（平成5年）からの懸案であった「雫の森」の整備がようやくできました。

雫の森は、会員有志の山をお借りし、県緑化推進委員会の支援をいただき、実のなる木や花の咲く木、紅葉が楽しめる木などの広葉樹・針葉樹23種を植栽した山です。面積に比べ欲張りすぎた感もありますが、ひとまず順調に生育しています。昨年に引き続き、今年も会員に呼びかけて6月と8月の下刈りに汗を流しました。

会では、この「雫の森」の整備のほかに、多くの方々の協力をいただきながら「智頭の森を歩く'02」など林業を理解する活動も行っています。

参考

杉の雫吟醸の会は、酒蔵の協力を得て1万円の年会費をいただき、その中から会員の方々に吟醸酒をお送りし、会費の2割相当を基金として積み立て、水の源である森を活かし・守る活動を行っている団体です。



学校林窓口を開設しました

各学校で、色々な取り組みがされていますが、「環境」特に「自然環境」を通じて自ら考え学び解決する「生きる力」を育むことも重要です。

学校林を持っている学校は、全学校の8%にすぎません。

学校林を作ってみませんか？

まずは、当委員会までお電話ください。

会員募集

当委員会では、緑豊かなよりよい地域緑化をめざし森林づくりや、身近な緑づくりに務めています。

会員への加入をよろしくお願いします。

・個人・法人・企業・会費1口1万円から